5E-06

トリレンマ緩解のための世界日本学とディジタル･ディプロマシー

沢　恒雄　　TSUNEO　SAWA　　遊工学研究所

1. 環境･社旗･経済のトリレンマ　[1][[4][5]

21 世紀の爛熟化した工業化社会は,環境･社会･経済のﾄﾘﾚﾝﾏの状態にある。22 世紀に人類は,100 億人になると予測されているが,地球の資源はそれを賄うだけの容量がなく人類存亡の危機である。原因となるﾄﾘﾚﾝﾏの解決策は,もはやない。解決策の代わりに緩解策として人口増加率と工業化率の低減を提案した。即ち,「生物人類温存ﾓﾃﾞﾙ」と「言語文化温存ﾓﾃﾞﾙ」の２大ﾓﾃﾞﾙの思想である。

2. トリレンマ緩解･艦戎策としての２大モデル　[1]

「２大ﾓﾃﾞﾙによるﾏﾙﾁ･ﾄﾘﾚﾝﾏの艦戎(緩解)の研究」は,日本が主体的となり現在と先人の良質な知財資産で２大ﾓﾃﾞﾙを構築し,活動の PDCA ｻｲｸﾙで餓死者･難民の低減可能な安寧空間を実現し,人類の温存を図る知財戦略である。

具現化する方略は,「世界日本学」の２大ﾓﾃﾞﾙを啓蒙･理解･認識後に政策化･実践の PDCA ｻｲｸﾙとする。これを数十年かけて実践し課題達成まで組織･種族などで継続する。これを日本が主導し教育するのが唯一の方法である。

「世界日本学」は,国際日本学,開発経済学,ｻｰﾋﾞｽ･ｻｲｴﾝｽ,AHP などの領域を統合したﾓﾃﾞﾙである。日本･日本人が,そのﾓﾃﾞﾙをﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ･ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏｼｰで情報発信し,定着させることで環境･社会･経済のﾄﾘﾚﾝﾏの緩解が可能となる。

3. 世界日本学の概念実現の情報システム　[1]～[5]

「世界日本学」の概念構築に際して必須となる情報ｼｽﾃﾑを下記に述べる。

①　GMA 概念情報ｼｽﾃﾑ, GMAIS(Global Model Architecture Information System)

思考支援環境,集団意思決定支援環境と合意形成支援環境を提供するｼｽﾃﾑ概念である。その概念は,適用業務に依存せず応用できる。適用業務の任意の機能(課業=タスク)の経営ｻｲｸﾙ PDCA(計画⇒実行⇒評価⇒行動へ反映)で,経験知を獲得して業務の質･量の改善に利用される情報ｼｽﾃﾑである。各種ﾓﾃﾞﾙからﾓﾃﾞﾙﾍﾞｰｽが構築され知財となる。

②　実践知獲得制御ｼｽﾃﾑ PIACS　(Practical Intelligence Acquisition Control System)

経営の PDCA ｻｲｸﾙで,言語化されていない経験知(暗黙知)即ち,実践知を言語化し,形式知に変換していく知的作業を行うための支援ｼｽﾃﾑである。その概念は,実践知獲得･継承制御ｼｽﾃﾑである。GMAIS と同様に課業がﾓﾃﾞﾙの基本的な単位でﾓﾃﾞﾙの効率化と効果化を向上させる。

YUUKOUGAKU　Institute

②　統合的知財管理システム GMPIA(GMAIS with PIACS)

GMAIS の思考支援環境に,実践知獲得の機能(PIACS)を包含した統合的な「知財管理･発信ｼｽﾃﾑ」である。包括的な概念として総合知財管理ｼｽﾃﾑGMAPIAｼｽﾃﾑと称す。機能は,実践知獲得･継承の制御と知財統合的管理である。

経営資源と経営資産を管理･運営し,情報発信,国際開発実践でﾄﾘﾚﾝﾏ緩解効果を得るのが目的である。

4. ＧＭＰＩＡによる世界日本学モデルの実現法

先行研究として,「専門日本語教育」の“専門”を“経営”として「経営日本語教育」ｺｰｽとその管理ｼｽﾃﾑの「経営日本語教育ｼｽﾃﾑ」を開発した[5]。今後,「汎用専門日本語教育」ｼｽﾃﾑとして拡張し,さらにﾄﾘﾚﾝﾏに関連する機能と評価機能を付加し「世界日本学」ﾓﾃﾞﾙ(ｼｽﾃﾑ)とする。

人類存亡を賭けた知財戦略活動は,ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ･ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏｼｰで世界日本ﾓﾃﾞﾙ(２大ﾓﾃﾞﾙ)の理念を情報発信し,啓蒙･国際開発の実践でﾄﾘﾚﾝﾏ緩解を達成するのが日本の責務だ。

5. 世界日本学モデルの前提

近隣の国は,「如何わしい捏造した歴史認識を外交政策」とした。我々日本･日本人は,世界の歴史を創ってきた先人の成果を「如何わしい歴史認識」から「正当な世界の歴史」としてﾄﾘﾚﾝﾏ緩解ﾓﾃﾞﾙの基盤にすべきである。

「世界日本学」の実践は,適切な施策の啓蒙･理解･認識と施策立案･実践･評価の客観的事実の過程を経営し管理する。その為に日本は,自虐史観を払拭し,縄文時代より第2次世界大戦以前の日本･日本人の基本理念を復活させ,半ば消滅した良質の歴史的事実を再認識と修正,加えて東京裁判など正当性を修正することが重要である。

6.日本･日本人の基本理念

大東亜戦争時,日本の思想の真骨頂は,建国の宏謨(ｺｳﾎﾞ)八紘一宇の大理想に基づき,白人のｱｼﾞｱ隷属支配を断ち「ｱｼﾞｱ人のｱｼﾞｱ」と「大東亜の共栄圏」を建設し,ｱｼﾞｱ人の心を１つに結ぶ真贋を表明するものであった。これら再認識すべき事項の一部を上げてみる。

⑴石原莞爾：世界最終戦論➡天皇の御存在が世界統一の霊力での満洲帝国の基本思想,⑵藤原岩一：F 機関➡八紘一宇･大東亜共栄圏の実践的な特務機関,⑶樋口季一郎：占守島の勝利➡日本を米英露中の管轄に分断を抑止効果⑷樋口季一郎･杉原千畝：ユダヤ人の人命救済➡人種差別の主張を実現例,⑸昭和天皇：皇紀 2605 年 8 月 15 日の玉音放送➡日本の国体護持と世界安寧を祈願された内容

Copyright ©2016 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.

昭和天皇の玉音放送は,縄文時代から敗戦後の日本の復興発展までを見通して,日本国民と枢軸国までにも明確に伝達される事を願って日本の本質を吐露された内容となっている。下表に玉音放送の音声の原典と世界ｼｽﾃﾑ構築によるﾄﾘﾚﾝﾏ緩解/艦戎の方略の指針を示した。

また,日本国民が自ら東京裁判の違法性と関連する外交的誤謬を正し,日米戦争の再審的評価をすべきである。

元々が歴史の浅い覇権国である戦勝国の驕りの裁きであった。今後の憲法改正は,単純な法文の手直しでなく「世界日本学」概念を組み込んだ憲法とすべきだ。

7．結言【[世界日本学]の創製にむけて】

日本の縄文時代の日本各地の遺跡からの発掘物で武器は皆無であった。その世界は,和と話し合いを前提とした豊かな世界であったとされている。日本は,その時代の神話から万世一系の皇室に連綿とする精神が国家的な背骨である。和と話し合いによる安寧社会,人種差別や平等な安寧空間を実現していた。さらに匠とｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝを重視する良質な特質・特徴を持ち,これらはﾄﾘﾚﾝﾏ緩解の重要な資源・資産として活用が可能である。２大モデルの実現は,日本しか出来ない。これを外交の中枢に設定すべきだ。

玉音放送又は終戦の詔書(大東亜戦争終結ノ詔書、戦争終結ニ関スル詔書)

		原　　文	過去・現在・未来の世界システムへの根本思想➡ﾄﾘﾚﾝﾏ緩解の世界日本学へ
1	1	朕深ク世界ノ大勢ト帝国ノ現状トニ鑑ミ非常ノ措置ヲ以テ時局ヲ収拾セムト欲シ茲ニ忠良ナル爾臣民ニ告ク	人類滅亡となる癌を摘出する決断であったと確信する。昭和天皇は、まず日本、アジア圏の安寧を願われ、植民地主義・覇権主義の是正を目指されたといえる。
	2	朕ハ帝国政府ヲシテ米英支蘇四国ニ対シ其ノ共同宣言ヲ受諾スル旨通告セシメタリ	米国などのABCD包囲網外交などで窮鼠猫を噛むようなハルノートに対して国として主権を守る最後の決断であった。敗戦後の当事者たるGHQのマッカーサーは、退役後に米国議会の公聴会で日本の宣戦布告は、正しかったと証言している。地政学的にも、欧米諸国が、アジア諸国を植民地化し搾取したことによる対応として大東亜共栄圏構想が提案された。覇権主義は、現在も払拭されていないしトレリンマ緩解の対策も討議なし。
2	1	抑々帝国臣民ノ康寧ヲ図リ万邦共栄ノ楽ヲ偕ニスルハ皇祖皇宗ノ遺範ニシテ朕ノ拳々措カサル所	古事記、日本書紀から律令制の確立、国家成立の初期段階としての武家社会を経て、日本文化が満開に栄え、戦国時代の戦争の在り方から、一般的に飛び道具と刀物の排除と使用制限を確立した国体を形成した。日本は、明治維新後の日清・日露戦に勝ち、脱亜入欧により欧米の長所を大和文化に組み込みを先がけて,人種差別(肌色差別)を念頭に置いて、満州帝国を桃源郷たるべき5族協和構想を実現した。ハリマンとの共同経営にしていれば桃源郷は実現した。
	2	曩ニ米英二国ニ宣戦セル所以モ亦実ニ帝国ノ自存ト東亜ノ安定トヲ庶幾スルニ出テ他国ノ主権ヲ排シ領土ヲ侵スカ如キハ固ヨリ朕カ志ニアラス	白人社会の覇権主義や植民地主義は、有色人種の諸国からなるアジアから搾取し、奴隷的地位に貶めた近世は、人類が現在その存亡を賭けた滅亡の危機に遭遇しているトリレンマの遠因となった。22世紀には人類は存在しないと糸川英夫博士は、遺作で主張してた。トレリンマ緩解で人類の温存が可能となるのは、日本の特質たる先人からの良質な社会倫理感やもろもろの日本の文化・文明の成果を世界的に啓蒙し、宣伝し、教育してそれらを取り込んだ世界の実現しかない。
	3	然ルニ交戦已ニ四歳ヲ閲シ朕カ陸海将兵ノ勇戦朕カ百僚有司ノ励精朕カ一億衆庶ノ奉公各々最善ヲ尽セルニ拘ラス戦局必スシモ好転セス世界ノ大勢亦我ニ利アラス	誰もが勝てない戦争を米国と開戦することに昭和天皇は反対した。ゼロ戦や空母・戦艦の突出した技術力を背景に山本五十六は、2，3年なら持たせられると海軍主導で決戦が決定した。講和の時期と方法を決められなかったことが最悪の欠点であった。昭和天皇は、パチカンに仲裁をと考えていた。また、張作霖の謀殺は、事件発生も事後処理も最悪事件で、昭和天皇は、当時の田中首相に責任者の裁きを命ぜられた。しかし、官僚の悪しき風潮で無策で放置された。これが絶対あってはならぬ支那事変へと直結した。陸軍官僚の突出であった。
	4	加之敵ハ新ニ残虐ナル爆弾ヲ使用シテ頻ニ無辜ヲ殺傷シ惨害ノ及フ所真ニ測ルヘカラサルニ至ル	東京大空襲、広島・長崎の原爆は、条約違反で最悪の戦争犯罪である。東京裁判は、これを糊塗するために勝者の立場で行った。人類の歴史の汚点として、覇権主義が芽吹き始め、外交文書が公開されている現在こそ、総括すべき時期だ。
	5	而モ尚交戦ヲ継続セムカ終ニ我カ民族ノ滅亡ヲ招来スルノミナラス延テ人類ノ文明ヲモ破却スヘシ斯ノ如クムハ朕何ヲ以テカ億兆ノ赤子ヲ保シ皇祖皇宗ノ神霊ニ謝セムヤ	日本帝国の消滅を食い止める意思決定に際して、昭和天皇は、万世一系の天皇制と利口で良質な日本民族の苦難に対する真摯な心情は天皇の本心であっただろう。
	6	是レ朕カ帝国政府ヲシテ共同宣言ニ応セシムルニ至レル所以ナリ	ポツダム宣言受諾の理由とした国体護持と日本帝国の存続を胸に断腸の思いの決断あった。戦略的思考と外交音痴の欠点が災いして米国に宣戦布告を余儀なくされた。さらに日露戦争のように戦端を開いた後の落としどころの講和の時期と方略を文民統制で決断し得なかったことが敗戦の原因だ。
3	1	朕ハ帝国ト共ニ終始東亜ノ解放ニ協力セル諸盟邦ニ対シ遺憾ノ意ヲ表セサルヲ得ス	欧米諸国の形態とは異なった侵略だったが、終戦後に続々とアジア諸国は、独立したという歴史は、日米戦争の副産物ではなく、大東亜共栄圏の思想が根底にあり、後期2605年以降ｱｼﾞｱ諸国の独立に参戦した日本人も多くいた。
	2	帝国臣民ニシテ戦陣ニ死シ職域ニ殉シ悲命ニ斃レタル者及其ノ遺族ニ想ヲ致セハ五内為ニ裂ク且戦傷ヲ負ヒ災禍ヲ蒙リ家業ヲ失ヒタル者ノ厚生ニ至リテハ朕ノ深ク軫念スル所ナリ	終戦後の食糧不足や国体護持に対して、自分はどうなっても良いので、日本人・日本を助けてと懇願されたことが、日本人と日本を守った。民衆主義の定着を目的に、理想的だが現実離れした憲法を強いられた、教育制度も改悪された、
	3	惟フニ今後帝国ノ受クヘキ苦難ハ固ヨリ尋常ニアラス爾臣民ノ衷情モ朕善ク之ヲ知ル然レトモ朕ハ時運ノ趨ク所堪ヘ難キヲ堪ヘ忍ヒ難キヲ忍ヒ以テ万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス	1945年から1985年の40年で経済的に米国に追いつき、瞬間的に追い越した。米国の象徴たる建造物や映画会社の買収は、彼らにとって驚愕の事実だろう。日本の驕りと外交下手が原因である。金融経済に視点を置いた戦略と政策で簡単に**うっちゃり**をくらい、奈落のバブル崩壊とデフレの低迷が20年続いた。その後に、一時期、秘密主義・権威権力主義的な悪しき社会主義政党が日本の良質な特性に壊した。現政権は、覇権主義国家の隷属化から日本を取り戻す努力中だ。
4	1	朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ忠良ナル爾臣民ノ赤誠ニ信倚シ常ニ爾臣民ト共ニ在リ	生涯を通じた巡行で日本人良心を癒された。君臨すれど統治せずは、統治上の形式でであり、日本・日本人・世界のための日常的な祈念は神的な特性である。
	2	若シ夫レ情ノ激スル所濫ニ事端ヲ滋クシ或ハ同胞排擠互ニ時局ヲ乱リ為ニ大道ヲ誤リ信義ヲ世界ニ失フカ如キハ朕最モ之ヲ戒ム	家族主義、村社会と列島統治の精神的な心の支えになっている。日本になじめない欧米の風習は、旧来の良質な特質に戻すべきであろう。条約の遵守や嘘の少なさや災害時に略奪のない国は多くはない。
	3	宜シク挙国一家子孫相伝ヘ確ク神州ノ不滅ヲ信シ任重クシテ道遠キヲ念ヒ総力ヲ将来ノ建設ニ傾ケ道義ヲ篤クシ志操ヲ鞏(カタ)クシ誓テ国体ノ精華ヲ発揚シ世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ	匠の世界、武士道精神、足るを知る、共存共栄のコミュニティが日本の良質な人類存続の特性的な倫理観である。最近のノーベル賞の受賞は、中途半端な教育制度の枠にはまらない、逸材が日本人の裁量の特質を内に秘めて、努力した成果である。
	4	爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ体セヨ	昭和天皇・平成天皇は、日本人に生き様の範としての存在である。世界・日本・日本国民の安寧を毎日祈念されちるには、日本だけであろう。人類存続のために環境・社会・経済のﾄﾘﾚﾝﾏ緩解・艦戎の思想を世界に発信すべき時期である。

参考文献 [1]沢恒雄：２大ﾓﾃﾞﾙによるﾄﾚﾚﾝﾏの艦戎(緩解)の研究,第14回情報科学技術ﾌｫｰﾗﾑ(FIT2015),4Q-6
[2]沢恒雄：世界日本学の提案,第14回情報科学技術ﾌｫｰﾗﾑ(FIT2015），4Q-7
[3]沢恒雄：GMAISによるﾄﾘﾚﾝﾏ解緩論,情報知識学会全国大会,2010
[4]沢恒雄：ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾓﾃﾞﾙ・ｱｰｷﾃｸﾁｬGMAﾓﾃﾞﾙによる情報ｼｽﾃﾑGMAIS,特許公開 番号：特開平10－198647,1996
[5]沢恒雄：規範ﾓﾃﾞﾙとしての経営日本語教育ｺｰｽの開発と実践,桜美林大学大学院修士論文,2013/9

Copyright ©2016 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.